

第 28 回応用物理学会プラズマエレクトロニクス分科会プラズマ新領域研究会
『液体および生体とプラズマの相互作用』

概要：近年、液中や気液界面プラズマの研究が盛んに行われ、有機物の分解・成膜・ナノ粒子の生成・水素の製造など、幅広い応用が見られる。気液界面プラズマは、さらに、遺伝子導入や生体との相互作用へとフィールドを広げ、農業応用への道を開いた。現象の理解にはプラズマの存在する空間における原子・分子・電子・ラジカルの振る舞いに加え、界面を通じて、液体もしくは生体への侵入・刺激といったことを総合的に把握する必要がある。本研究会では、液中や気液界面あるいは生体とプラズマの相互作用について、幅広く取り上げ、現象解明と今後の発展へ向けて議論を行う。

日時：3月9日(金)13:30-17:00

場所：愛媛大学メディアホール

13:30-13:35

開会のあいさつ：野村 信福 先生（愛媛大学学長特別補佐・社会連携担当）

13:35-15:05

座長：池田 善久

- 1) 竹内 希（産総研）「気液界面プラズマを用いた界面活性剤 PFOS 分解の特徴」
- 2) 前原 常弘（愛媛大）「水中プラズマの発生と利用」
- 3) 向笠 忍（愛媛大）「高圧水中プラズマの特性について(仮)」

15:05-15:25 <休憩>

15:25-16:55

座長：前原 常弘

- 4) 朽久保 文嘉（首都大）「液体の導電率を考慮した液体電極放電のシミュレーション」
- 5) 池田 善久「プラズマ遺伝子導入の農水産分野への応用」
- 6) 近藤 隆（富山大）「大気圧プラズマの生体作用－細胞内外の活性酸素生成と細胞死－」

16:55-17:00

閉会のあいさつ：朽久保 文嘉 先生（プラズマエレクトロニクス分科会幹事長）

問い合わせ：前原（愛媛大）maehara.tsunehiro.mg@ehime-u.ac.jp